

令和3年度公益社団法人茨城県青少年育成協会事業報告 及び収支決算について

[事業報告]

実施事業の概要

明日の茨城を担う青少年が、健やかにたくましく成長し、自立・活躍できる社会を実現することは、すべての県民の願いです。

しかしながら、急激な社会の変化に伴い、家庭や地域の教育力が低下している今日、青少年にとっての成長の糧となる生活体験や自然体験の減少により、規範意識や社会性の低下、思いやりの欠如、いじめ、不登校・ひきこもり・ニート、さらには、ネット犯罪の被害や児童虐待・貧困問題等様々な問題が指摘されています。

このような青少年を取り巻く問題は大人社会の反映であり、大人一人ひとりがこれらの問題に取り組むことは、私たちの責務であります。

そこで、地域の大人自らが、その現況を自覚し、学校・家庭・地域社会が相互に連携・協力していく「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」の普及促進を県民運動の根幹に据えるとともに、「地域を編む孤立0（ゼロ）プロジェクト事業」をとおした地域のネットワークづくりに取り組み、社会全体による青少年育成支援の環境整備に努めました。

また、青少年の自立心や社会性を育む「少年の主張茨城県大会」を継続して開催するとともに、市町村においても同様の主張大会が開催されるよう働きかけてまいりました。

さらに、青少年育成県民運動の更なる発展を目指し、青少年育成市町村民会議の全市町村設置と、関係機関・団体との連携を一層図りながら、次の7項目を重点目標として各種活動を展開しました。

重点事業

- 1 「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」の普及推進
- 2 「あいさつ・声かけ運動」の推進
- 3 「少年の主張茨城県大会」等青少年主張大会の充実
- 4 「明るく楽しい家庭づくり」運動の推進
- 5 「地域を編む孤立0（ゼロ）プロジェクト事業」の推進
- 6 青少年育成市町村民会議、関係機関、PTA、その他関係団体との連携強化
- 7 県立青少年会館の運営に関わる事業の充実

- 1 「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」の推進では、大人自らが自身を省みて手本となるよう心がける「大人のマナーアップ宣言」のほか、市町村との連携によるのぼり旗や啓発物品の共同作成をとおして普及啓発に努めた。
- 2 「あいさつ・声かけ運動」では、ポスター、啓発品の提供をとおして、青少年育成市町村民会議、関係団体等との協議を進めながら取り組みの支援に努めた。
特に今年度は、新たな協力機関と連携し、コロナ禍における効果的な啓発体制を構築した。
- 3 「少年の主張茨城県大会」の開催方法を変更、実施することで、青少年に社会の一員であることの自覚を促すとともに、主張発表記録集及び県大会出場者全員の主張発表を収録したCDを作成し、県内すべての中学校等に配付して、青少年の健全育成に対する県民の理解と関心の向上に努め、当初の目的を達成した。
- 4 「明るく楽しい家庭づくり」運動の推進では、小学生及び中学生から「家庭の日」を主題とした絵画やポスターを募集した。市町村から推薦を受けた作品の中から正副会長による審査で最優秀作品を選定し、その全作品を機関紙「あけぼの」で紹介するとともに、新たな作品展を開催したことにより、「家庭の日」の普及啓発の充実に取り組んだ。
- 5 地域を編む孤立0（ゼロ）プロジェクト事業では、困難を抱える子ども・若者の支援活動に取り組む団体を公募し、3団体に補助金交付するとともに、活動に対する助言等をとおして連携・協働を促進した。
また、不登校、ひきこもり、貧困問題などの現代的課題に対する理解を深めるため、関係4団体による合同研修会を開催し、現状についての情報共有に取り組んだ。
さらに、合同研修会の記録集を作成し、青少年育成市町村民会議、関係団体等へ情報提供することで、課題共有に取り組むことにより、事業目的に沿った具体的な活動につなげることができた。
- 6 青少年育成市町村民会議、関係機関、PTAその他関係団体との連携強化では、青少年育成市町村民会議が開催する各種会議、研修会等に出席・参加し、情報の提供や活動の支援を行った。
- 7 県立青少年会館の運営に関わる事業の充実では、子ども・若者の居場所となるアイルームの空調設備、図書の整備等、機能強化に取り組み、利用者サービスの促進及び会館機能の向上に努めた。

実施事業の内容

I 県民運動推進事業

◎ 県青少年育成協会の組織体制

役員 会長 1名 副会長 7名
理事 29名（会長、副会長を含む。）
監事 2名
事務局職員 局長1名 事務局次長1名 係長1名 主事1名
常勤嘱託員1名 臨時職員1名 非常勤嘱託員5名

1 県青少年育成協会の運営

(1) 総会

①令和3年度定時総会

- 開催日 令和3年6月23日(水)
- 会場 県立青少年会館(水戸市)
- 出席正会員 99名中 85名（書面表決者33名を含む）
- 議事 議案第1号及び第2号について審議し、承認可決した。
議案第1号 令和2年度事業報告及び収支決算について
議案第2号 役員補欠選任について
 - ・監事から監査報告があった。
 - ・今年度の実施事業を説明した。
 - ・退任する理事から退任の挨拶があった。また、理事に就任する被選任者から就任の挨拶を行った。
- 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、正会員1団体1名の出席として開催した。

(2) 理事会等

①第1回理事会

- 開催日 令和3年6月2日(水)
- 会場 県立青少年会館(水戸市)
- 出席理事 29名中 20名
- 出席監事 2名中 2名
- 議事 令和3年度定時総会付議事項等について審議し議決した。
議案第1号 令和2年度事業報告並びに収支決算について
議案第2号 令和3年度定時総会の開催について
議案第3号 役員補欠選任について
議案第4号 名誉会長、顧問及び参与の委嘱について
 - ・監事から監査報告があった。

- ・令和3年3月末及び5月末までの「事業の執行状況」について報告した。
- ・定時総会で退任予定の3名の理事から退任の挨拶があった。

②第2回理事会

- 開催日 令和4年3月2日(水)
- 会場 県立青少年会館(水戸市)
- 出席理事 29名中 21名
- 出席監事 2名中 2名
- 議事 令和4年度活動方針並びに事業計画及び収支予算等について審議し議決した。

議案第1号 令和4年度活動方針並びに事業計画について

議案第2号 令和4年度予算について

議案第3号 役員改選の基本方針について

- 報告事項 次の項目について報告した。

- ・令和3年度青少年団体等顕彰受賞者及び感謝状の贈呈について
- ・令和3年度「家庭の日」絵画・ポスター応募状況及び最優秀作品について
- ・青少年会館の利用状況等について
- ・基本財産の預け入れ先について
- ・会長報告
- 事業の執行状況について(令和4年2月末日まで)
- ・正会員の退会について

- その他 賛助会員の入会状況、「令和3年度青少年団体等表彰式・令和4年度事業説明会及び意見交換会」について報告した。

③正副会長会議(役員連絡会議)

正副会長会議(役員連絡会議)は協議の他に、役員同士における情報の共有として、事業の執行状況として、関係団体への出席結果及び事務局からの報告等を行った。

(第1回)

- 開催日 令和3年4月14日(水)
- 会場 県立青少年会館(水戸市)
- 出席者 正副会長8名中 6名出席
- 内容 事業の執行状況等の報告及び当面の実施事業について事務局から説明を行うとともに、アイルームの運営方法などについて協議した。

(第2回)

- 開催日 令和3年7月9日(金)
- 会場 県立青少年会館(水戸市)

- 出席者 正副会長 8 名中 7 名出席
- 内 容 少年の主張県大会の開催予定状況、県青少年健全育成審議会などの報告が行なわれた。

(第 3 回)

- 開催日 令和 4 年 2 月 18 日(金)
- 会 場 県立青少年会館(水戸市)
- 出席者 正副会長 8 名中 6 名出席
- 内 容 情報共有を行うとともに、第 2 回理事会へ上程する議案について協議した。

④監査の実施

- 開催日 令和 3 年 5 月 26 日(水)
- 会 場 県立青少年会館(水戸市)
- 内 容 令和 2 年度事業報告及び収支決算について、中村弘行監事及び今関裕夫監事が監査を行った。

2 県民運動推進事業

(1) 青少年育成活動推進意見交換会

①第 1 回

- 令和 3 年 6 月 23 日(水)(定時総会時)に開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け開催を中止した。
- ・定時総会における「茨城県青少年育成協会実施事業の説明」で、市町村・青少年育成市町村民会議の「特色ある取り組み」「活動の課題」の調査結果を報告した。
- ・定時総会の会場には、正会員が作成した啓発物を展示し、正会員間の情報交換を図った。

②第 2 回

- 開催日 令和 4 年 3 月 23 日(水)
- 会 場 県立青少年会館(水戸市)
- 出席者数 80 名
- 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、正会員 1 団体 1 名の出席として開催した。
- 内 容
 - ・役員改選の方針について説明した。
 - ・令和 4 年度活動方針並びに事業計画・収支予算について説明した。
 - ・県青少年育成協会への要望、実施事業に対しての意見交換を行った。

(2) 広報活動

青少年育成県民運動を広報啓発するため、ホームページ、機関紙等の各種媒

体を活用して広報活動を行った。

○機関紙「あけぼの」

- ・ 第 134 号 令和 4 年 3 月発行 12 ページ 6,500 部
- ・ 配付先 市町村、市町村民会議、正会員、賛助会員、県庁関係課、
県等関係機関・団体、都道府県民会議等

(3) 各種表彰

①青少年団体等顕彰

地域で地道に優れた活動を展開している青少年団体、青少年、青少年育成団体及び青少年育成指導者を表彰し、その活動を奨励した。

○青少年団体等顕彰選考委員会

- ・ 開催日 令和 4 年 2 月 18 日(金)
- ・ 会 場 県立青少年会館(水戸市)
- ・ 出席者 選考委員 9 名中 7 名出席

○表彰式

- ・ 開催日 令和 4 年 3 月 23 日(水)
- ・ 会 場 県立青少年会館(水戸市)
- ・ 出席者 80 名
- ・ 顕彰件数 11 件 (青少年団体 1 団体 青少年 3 名
青少年育成団体 2 団体 青少年育成指導者 5 名)

②感謝状贈呈

令和 3 年度青少年育成県民運動に貢献した団体等へ感謝状を贈呈した。

○贈呈件数 8 件

- ・ 少年の主張茨城県大会に貢献された団体
株式会社 鹿島アントラーズ・エフ・シー(鹿嶋市)
高萩市市民憲章推進協議会(高萩市)
- ・ 多額の活動助成金を寄せられた団体
ライオンズクラブ国際協会 333-E 地区
- ・ 「地域を編む孤立 0 (ゼロ)プロジェクト」合同研修会に貢献された法人
株式会社 西野看板(水戸市)
- ・ 「家庭の日」絵画・ポスターの展示に貢献された法人
イオンモール水戸内原(水戸市)
- ・ 子ども・若者アシスト i (アイ)事業に貢献された法人
水戸農業協同組合(水戸市)
- ・ 「あいさつ・声かけ運動」に貢献された法人
株式会社 フットボールクラブ水戸ホーリーホック(水戸市)
株式会社 茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント(水戸市)

(4) 会議等への出席

青少年育成県民運動の連携を図るため、県関係機関、団体が行う青少年健全

育成関係諸会議、大会等へ出席・参加し、協力・連携を深めながら効果的な運動の推進を図った。また、12の機関、団体の事業に対し後援を行った。

○関係機関・団体との連携先（13機関団体）

- ・茨城県青少年健全育成審議会
- ・茨城県子ども・若者支援地域協議会
- ・「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会
- ・茨城県安全なまちづくり推進会議
- ・茨城県暴走族対策会議
- ・“社会を明るくする運動”茨城県推進委員会
- ・チャレンジいばらき県民運動
- ・茨城県ユースホステル協会
- ・全国青少年育成県民会議連合会
- ・公益社団法人茨城原子力協議会
- ・(公財)茨城県暴力追放推進センター
- ・茨城県未成年者喫煙防止対策協議会
- ・茨城大学（社会連携センター）

(5) 青少年心理アドバイザーの派遣

青少年育成者の資質向上と地域活動の促進を図るため、青少年心理やカウンセリング等に専門的な技術や知識を有する「青少年心理アドバイザー」を、地域で開催する研修会等へ派遣した。

- ・青少年心理アドバイザー 13人（登録）
- ・派遣 2回

(6) 青少年関係事業の相談等

青少年団体活動、青少年育成活動に関する相談に応じた。

3 青少年育成県民運動の周知強化事業

青少年育成県民運動の充実と一般県民等へ更なる周知を図るため、賛助会員及び事業協賛金等の募集活動を行った。

(1) 新賛助会員の確保

○実績 166,000円

(新規加入 法人13口 / 個人9口 / 特別賛助会費9口)

(2) 協賛金・活動助成金等の受入等

- | | | |
|--------|----------------------|----------|
| ○協賛金 | 水戸西ライオンズクラブ | 50,000円 |
| | 日本たばこ産業株式会社東関東支社 | 50,000円 |
| ○活動助成金 | ライオンズクラブ国際協会 333-E地区 | 300,000円 |
| ○事業助成金 | 公益財団法人げんでんふれあい茨城財団 | 50,000円 |

(役員に関する事項)

○令和3年4月1日、役員（正副会長、理事及び監事）が、協会管理下の活動中に不測の事故にあった際に対応する傷害保険（新型コロナウイルス関連は対象外）に加入した。

- ・令和3年度「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業」関東甲信越静岡ブロック研修会（内閣府主催、10月14日（木）、オンラインにて開催）に役職員5名が出席した。

- ・令和3年度「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業」中央研修会(内閣府主催、11月29日(月)・30日(火)、オンラインにて開催)に役職員7名が出席した。
- ・令和3年度いばらき教育の日・教育月間シンポジウム(茨城県教育委員会主催、11月1日(月)～11月30日(火)、オンライン(オンデマンド配信)にて開催)に役職員5名が参加した。

II 地域活動推進事業

1 市町村民会議活動の推進

地域において青少年育成運動を総合的に推進している市町村民会議等の活動と組織充実のために支援を行った。

(1) 市町村民会議活動の支援

市町村民会議の活動が促進されるよう、訪問、電話等により活動の支援を行った。

(2) 市町村民会議の結成促進

市町村民会議未結成市町へ訪問し結成促進を図った。

- ・訪問市町 阿見町 神栖市

(3) 地区市町村民会議連絡会活動の支援

①地区市町村民会議連絡会の活動充実を図るため、申請のあった地区連絡会へ1万円の助成を行った。()：令和3年度事務局

- ・水戸地区青少年育成市町村民会議連絡会(水戸市)
- ・大宮地区青少年育成市町村民会議連絡会(常陸大宮市)
- ・県北地区青少年育成市町村民会議連絡会(太子町)
- ・鹿行地区青少年育成会連絡会(行方市)
- ・土浦地区青少年育成市民会議連絡会(つくばみらい市)
- ・稲北地区青少年育成市町村民会議連絡会(稲敷市)
- ・県西東部地区青少年育成市町村民会議連絡会(桜川市)
- ・県西西部地区青少年育成市町村民会議連絡会(坂東市)

②地区市町村民会議連絡会の研修会に出席して、活動の支援を行った。

2 市町村民会議会長・事務局長・青少年行政担当者等研修会

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受け研修会の開催は中止とし、代替事業として「市町村・市町村民会議(本部又は支部)等の特色ある活動及び課題等」を取りまとめ関係者に配付した。

○配付先 市町村、市町村民会議、県関係機関・団体等

3 青少年育成市町村民会議訪問懇談会

当協会役職員が市町村民会議を訪問し、青少年育成活動の進め方等について関

係者と意見交換を行い、県民運動の普及と市町村市民会議の活動促進を図った。

○懇談会実施市町村市民会議

- ・ 青少年育成稲敷市民会議（稲敷市）
令和3年12月1日(水) 市江戸崎中央公民館 5名出席
- ・ 青少年を育てる小美玉市民の会（小美玉市）
令和3年12月3日(金) 市小川庁舎 7名出席
- ・ 青少年育成常総市民会議(常総市)
令和3年12月9日(木) 市生涯学習センター 5名出席
- ・ 青少年育成筑西市民の会(筑西市)
令和3年12月9日(木) 市本庁舎 6名出席
- ・ その他、情報収集のために、事務局で全市町村を訪問した。
(1月26日～2月1日、平日の5日間)

4 地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト事業の実施

生きづらさを抱える子ども・若者が、支援の網の目からこぼれ落ちてしまわないよう、地域での連携した支援を進める孤立0(ゼロ)の取り組みの全県的な波及と複合的支援活動の発展を図る「地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト事業」を実施した。

(1) 合同研修会の実施

不登校・ひきこもり、貧困問題など、困難を抱える子ども・若者について理解を深めるため、青少年育成団体等の合同研修会を開催するとともに、その記録集を作成して関係者に配付した。

合同研修会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、8月25日開催予定だったところ、12月に延期して開催した。開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から1市町村・1団体につき1名の出席としたが、本研修会の内容をより多くの方に届けるため、記録集を作成して配付した。

- 開催日 令和3年12月17日(金) 13:00～15:30
- 主催 (公社)茨城県青少年育成協会
- 共催 茨城県PTA連絡協議会 いばらき子ども見守りネットワーク (茨城県青少年相談員連絡協議会)
茨城県生涯学習・社会教育研究会
- 協力 株式会社 西野看板 (看板の提供)
- 会場 県立青少年会館(水戸市)
- 内容 <講話>
「地域の力で孤立しない・させない社会づくり」
グッジョブセンターみと センター長 小鷹 美代子 氏
<情報提供>
「少年非行に隠された社会的背景」

水府学院 院長 根岸 正樹 氏

<活動発表>

「子どもの貧困問題について考える」

認定 NPO 法人 NGO 未来の子どもネットワーク

代表 笠井 広子 氏

「茨城県内の不登校等の支援活動について」

不登校・多様な学びネットワーク

世話人 石田 佳織 氏、木村 理恵 氏、中谷 稔 氏

○参加者 74 名

○記録集 令和 4 年 3 月発行 500 部

配付先 市町村・市町村民会議、正会員、茨城県関係各課、
都道府県民会議、その他関係機関・団体等 210 箇所

(2) 「地域を編む孤立 0 (ゼロ) プロジェクト」モデル事業の実施

困難を抱える子ども・若者の支援活動に取り組む団体を公募・指定し、1 団体 10 万円を限度として助成した。

また、事業内容を機関紙「あけぼの」で紹介した。

No.	実施団体 (所在地)	事業名
1	地域活性ボランティア 元氣食堂ふたば (水戸市)	「こども食堂」 毎月 1 回第 3 日曜日にこども食堂を開催。 ・ 農家さんより提供して頂いた野菜などの配布による支援 ・ 緊急事態宣言及び蔓延防止期間中は食材の配布のみ ・ クリスマスには児童養護施設等にケーキ・ピザの寄贈
2	高道祖地区子ども会 育成連合会 (下妻市)	「たかさい地域コミュニティスペース運営事業」 ・ 表現活動クリエイター 北島尚志 先生によるオンライン講演会 ・ 縁側 D I Y コミュニティスペースに縁側を製作 ・ 味噌造り体験
3	つくば de プレイパーク ひろめ隊 (つくば市)	「つくいち de プレイパークときつつきプレイパークからはじまる『みんなの居場所』」 「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、枯れ葉、枯れ枝、ロープなどを使って、自然の中で遊びを創造するプレイパークをつくば市内 2 カ所で定期開催 (各所月 1 回程度)。

(3) 「地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト」のための大会の実施

- 令和4年2月8日(火)に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け中止とした。

Ⅲ 青少年健全育成事業

1 少年の主張茨城県大会

少年の社会への関心や視野を広めるとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらおう力などの育成を図るため、県内中学生から主張文を募集した。

- ・共催 高萩市 高萩市教育委員会 高萩市学校長会 高萩市市民憲章推進協議会
- ・県青少年育成協会への推薦 231 作品
- ・応募総数 13,507 作品 33 市町村
- ・最優秀者(茨城県知事賞) 茨城県立古河中等教育学校1年
七五三掛 愛莉(しめかけ あいり)
- 新型コロナウイルス感染症拡大により、主張大会の開催を中止し、大会審査については主張文審査委員会の結果及び審査委員6名の書面による協議をもって、大会結果とした。
 - ・主張大会の代わりに、9月25日(土)茨城放送を会場に発表者10名に表彰及び発表収録を行い、10月17日(日)・24日(日)・31日(日)の19時30分から3回に分けて茨城放送にて放送した。(併せて、青少年育成県民運動のPRを行った)
 - ・全国大会出場候補者として、最優秀者(茨城県知事賞受賞者)を関東甲信越静岡ブロック審査(書類審査)へ推薦した。
 - ・発表記録集を900部及び主張発表(10名)を収録したCD500枚を作成し、全中学校、市町村教育委員会、市町村民会議及び正会員団体等へ配付した。

Ⅳ 明るく楽しい家庭づくり・「地域親」推進事業

1 大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—の推進

地域の大人や親一人ひとりが、自分自身を省みて子どもたちの手本になるよう心がける「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」の普及啓発を図った。併せて、「ながらスマホ0(ゼロ)」県民運動の普及啓発を推進した。

(1) 大人のマナーアップ宣言

- ・スマホを閉じて子どもに目を向ける
- ・子どもの笑顔をつくれる大人になる

・(地域の実情に合わせて項目を追加してください)

(2) 「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」街頭キャンペーンの実施

県民に広くアピールするために、関係機関・団体と連携し、「あいさつ・声かけ運動」及び「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」街頭キャンペーンを実施した。

●新型コロナウイルス感染拡大を受け、日立駅、土浦駅、つくば駅、守谷駅は中止とした。

また、規模を縮小して開催したところは以下の通り。

日 程	実施場所	実施主体	参加者数
11月 5日(金)	新鉾田駅	青少年育成鉾田市民会議	24名
11月 10日(水)	下館駅	青少年育成筑西市民の会	115名
11月 14日(日)	ケーズデンキ スタジアム水戸	茨城県青少年育成協会	11名
2月 5日(土)	アダストリアみと アリーナ	茨城県青少年育成協会	5名

(3) 啓発資料の作製

市町村民会議等へのぼり旗及びポケットティッシュ(「あいさつ・声かけ運動」と併記)の共同作製を斡旋した。

○大人のマナーアップ のぼり旗

・共同作製 2市町 計60枚

○大人のマナーアップ、あいさつ・声かけ運動 ポケットティッシュ

・共同作製 7市町村 計24,500個

・県青少年育成協会 13,500個

○県青少年育成協会で「大人のマナーアップ運動「あいさつ・声かけ運動」並列の横断幕を3枚作製した。

2 「あいさつ・声かけ運動」の推進

地域の大人と子ども、大人同士、子ども同士のコミュニケーションを広げる「きっかけ」とするため、家庭、学校、地域の中で日々「あいさつ・声かけ」が交わされるよう、県民や関係機関・団体への普及啓発に取り組むとともに、青少年育成市町村民会議等が推進主体になって地域で運動を展開するよう支援した。

(1) 「あいさつ・声かけ運動」強調月間街頭キャンペーンの実施

【再掲】

●新型コロナウイルス感染拡大を受け、日立駅、土浦駅、つくば駅、守谷駅は中止とした。

また、規模を縮小して開催したところは以下の通り。

日 程	実施場所	実施主体	参加者数
11月 5日(金)	新鉾田駅	青少年育成鉾田市民会議	24名
11月10日(水)	下館駅	青少年育成筑西市民の会	115名
11月14日(日)	ケーズデンキ スタジアム水戸	茨城県青少年育成協会	11名
2月 5日(土)	アダストリアみと アリーナ	茨城県青少年育成協会	5名

(2) 啓発資料の作製

市町村民会議等へのぼり旗及びクリアファイル、ポケットティッシュ（「大人のマナーアップ運動」と併記。）の共同作製を斡旋した。また、「あいさつ・声かけ運動」啓発用ポスター及びポケットティッシュ、クリアファイルを作製し、市町村等へ配付した。

- あいさつ・声かけ運動等 のぼり旗
 - ・共同作製 5市町 計568枚

【再掲】

- 大人のマナーアップ、あいさつ・声かけ運動 ポケットティッシュ
 - ・共同作製 7市町村 計24,500個
 - ・県青少年育成協会 13,500個
- 県青少年育成協会で「大人のマナーアップ運動」「あいさつ・声かけ運動」並列の横断幕を3枚作製した。

3 明るく楽しい家庭づくり運動の推進

(1) 「家庭の日」の推進

家族の絆を深め、家庭を大切にし、明るく豊かな家庭を築く「家庭の日」（第3日曜日）を推進した。

① 「家庭の日」絵画・ポスターの募集

市町村及び市町村民会議に小学生の部、中学生の部、各3作品以内として募集を行った。

市町村及び市町村民会議から推薦のあった作品は、イオンモール水戸内原様のご協力により、1週間展示を行い、大変多くの方々に見ていただくことができた。

当協会役員による審査で最優秀作品6点を決定した他、推薦された全作品を機関紙「あけぼの」及びホームページで紹介し、「家庭の日」の普及を図った。

○応募状況

- ・市町村応募数（26市町村）

小学生の部 3,458 作品 中学生の部 283 作品 合計 3,741 作品

- ・県青少年育成協会への推薦

小学生の部 74 作品 中学生の部 42 作品 合計 116 作品

○「家庭の日」絵画・ポスター審査

- ・令和4年1月28日(金)

県立青少年会館(水戸市) 3階 中研修室2

○「家庭の日」絵画・ポスター展示

- ・令和4年2月1日(火)～2月7日(月)

イオンモール水戸内原(水戸市) 2階イオンスタイル前通路

○最優秀賞受賞者

No.	氏名	学校・学年	タイトル
1	藤浪 萌	石岡市立林小学校 5年	年末みんなでにっこり 『1年間がんばったねパーティー』
2	小島 佑月	城里町立沢山小学校 1年	じてんしゃにのれたよ!
3	菊池 栞音	大子町立さはら小学校 4年	妹のかみ切り
4	鬼澤 瑚珀	水戸市立飯富中学校 1年	週末の楽しみ
5	関根 葵	わかすぎ学園 那珂市立第四中学校 8年	おじいちゃんに挑戦
6	北澤 風花	筑西市立下館南中学校 2年	その背中はいつまでも守るよ

4 青少年健全育成茨城県推進大会

●令和4年2月8日(火)に、子育て中の親や青少年育成関係者が一堂に会し、「中学生の主張発表」や「講演会」等を通して、青少年の健全育成に向けての理解と普及啓発を図る大会を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大を受け中止とした。

V 非行防止・社会環境浄化推進事業

1 薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の推進

茨城県及び茨城県薬物乱用防止指導員協議会が主体となって実施する「ダメ。ゼッタイ。」普及運動に市町村民会議と共に参加協力する。

(1)「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 6.26 ヤング街頭キャンペーンへの参加活動

・令和3年6月26日(土)、水戸駅で開催されたヤング街頭キャンペーンに役員1名が参加した。

(2) 「ダメ。ゼッタイ。」看板設置による広報啓発活動

薬物乱用防止を啓発する看板を県立青少年会館に設置して広報啓発活動を行った。

2 未成年者の喫煙防止活動の推進

茨城県未成年者喫煙防止対策協議会が主催となり、国県関係機関、市町村民会議、いばらき子ども見守りネットワーク(県青少年相談員連絡協議会)、県更生保護女性連盟、茨城県たばこ販売協同組合、日本たばこ産業(株)東関東支社等とともに未成年者喫煙防止街頭キャンペーンを行い、未成年者の喫煙防止啓発活動の推進を図る。

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、街頭キャンペーンが中止となった。
- ・地域での啓発活動に対応するため、未成年者の喫煙防止啓発活動の啓発品・ポケットティッシュを希望する市町村・青少年育成市町村民会議へ配付した。

3 「いばらき青少年・若者プラン」に呼応した活動の推進

茨城県等が主体となって実施した「茨城県フィルタリング普及啓発推進月間」・「春のあんしんネット・新学期一斉行動」周知啓発街頭キャンペーンに参加協力し、有害情報から青少年を守るフィルタリング普及啓発活動を推進する。

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、「茨城県フィルタリング普及啓発推進月間」及び「春のあんしんネット・新学期一斉行動」周知啓発街頭キャンペーンは中止となった。

4 安全なまちづくり県民運動の推進

- ・令和3年度「犯罪被害者支援講演会」(いばらき被害者支援センター主催、茨城県・茨城県警察共催、11月5日(金)、県庁講堂にて開催)に役員3名が出席した。
- ・茨城県安全なまちづくり推進会議設置要項が一部改正され、当初、当協会で開催を予定していたキャンペーンが実施されなかった。

VI 青少年会館運営事業

茨城県による県有施設の休業要請等による休館

- 新型コロナウイルス感染症拡大関連

令和3年8月18日(水)～9月30日(木) 44日間

- 電気工事

令和3年12月19日(日)～12月28日(火) 10日間

計54日間

1-1 茨城県立青少年会館（研修室）の運営<公益目的事業>

指定管理者である茨城県立青少年会館において、青少年及び若者の研修、学習、その他の活動を促進することを目的とする施設貸与を行った。しかし、緊急事態宣言や茨城県独自の非常事態宣言等によって休館となるなど、年間を通して新型コロナウイルスの影響を受け、利用は大幅減となった。

- (1) 1階アイルーム エアコン工事等の実施
- (2) 青少年等に対する低料金での施設貸与
- (3) 利用者アンケートの実施

1-2 茨城県立青少年会館（研修室）の運営<収益事業>

指定管理者である茨城県立青少年会館において、青少年等以外に対する施設貸与を行った。また、利用者に対してコピーサービスや食事提供の斡旋、またカプセルトイの継続設置等、サービス向上のための事業を実施した。

	令和2年度	令和3年度	前年度比
1-1 青少年等利用件数	238 件	309 件	129.8%
1-2 一般(青少年等以外)利用件数	1,039 件	1,241 件	119.4%
合 計	1,277 件	1,550 件	121.4%

2-1 偕楽園ユースホステル（宿泊室）の運営<公益目的事業>

指定管理者である偕楽園ユースホステルにおいて、青少年及び若者の健全な旅行を励行し、規則正しい行動を習得させることを目的とする施設貸与を行った。研修室と同様に、年間を通して新型コロナウイルスの影響を大きく受ける中、旅行代金の割引制度「いば旅あんしん割」を活用し、利用増に努めた。

- (1) 青少年等に対する低料金での施設貸与
- (2) 青少年団体等の引率者、関係者に対する割引料金の適用
- (3) 「いば旅あんしん割」などの支援制度への登録及び活用

2-2 偕楽園ユースホステル（宿泊室）の運営<収益事業>

指定管理者である偕楽園ユースホステルにおいて、青少年等以外に対する施設貸与を行った。宿泊室の複数利用者に対する割引料金の適用、洗濯機・乾燥機の継続設置、アメニティグッズの販売等のサービス向上を図り、利用者増に努めた。

	令和2年度	令和3年度	前年度比
2-1 青少年等利用人数	135 名	238 名	176.3%
2-2 一般(青少年等以外)利用人数	491 名	496 名	101.0%
合 計	626 名	734 名	117.3%

3 青年リーダーの養成に関する事業

(1) 若者ボランティアチーム「いばらきユースプロジェクト」の設置運営

青年たちが自主的な地域活動を通して仲間作りや達成感を体験することで成長し、地域における青年活動のリーダーとなる人材を育てることを目的に「いばらきユースプロジェクト」を組織してボランティア活動を行った。

新型コロナウイルスの感染拡大により、8月中旬から茨城県非常事態宣言や国の緊急事態宣言が発せられ、定例会の開催が難しい状況となったため、12月に実施を予定していた自主企画事業は、企画や開催準備が困難と判断し中止とした。

①本年度登録メンバー 13名（高校生5名、大学生5名、社会人3名）

②結団式

○開催日 令和3年6月12日(土) 10:00~12:00

○場所 県立青少年会館(水戸市) アイルーム

○内容 結団式を行って活動をスタートさせるとともに、自己紹介、事業の概要説明を行い、メンバーの交流を図った。

③県立図書館主催「正月遊び ダンボール羽子板づくり」

○開催日 令和4年1月9日(日) 14:00~16:00

○場所 県立図書館(水戸市)

○内容 県立図書館が主催する子育て支援事業「親子でエンジョイ県立図書館正月遊び」において、講師を担当した。

親子11組30名が参加する中、ユースプロジェクトメンバーがダンボール羽子板の作り方を説明した。親子の制作を手伝い、完成後は子どもたちと屋外で羽根つきをして楽しんでもらった。

(2) 子ども・若者アシストi(アイ)事業の実施

児童に地域で学ぶことの楽しさや教えあう喜びを体験することを目的に、地域のマンパワーを活用した学習会及び子ども食堂を開催した。

コロナ禍により、昨年度受講できなかった子どもにのみ参加を呼びかけ、少人数で実施した。子ども・若者の育ちを支援するボランティア「アシストメンバー」が主体となって運営を行った。

○開催日 ・令和3年7月31日(土) 10:00~15:00

・令和3年10月23日(土) 10:00~15:00

・令和3年11月27日(土) 10:00~15:00

・令和3年12月18日(土) 10:00~15:00

・令和4年1月22日(土) 10:00~15:00

●新型コロナウイルス感染症拡大を受け、8月28日(土)は中止とした。

○場所 県立青少年会館(水戸市) アイルーム等

○内容及び講師

①はじめて学ぶイングリッシュ/英語で遊ぼう1・2・3

元茨城キリスト教学園高等学校 非常勤講師 荷見 智子 氏
常陸太田市立峰山中学校 講師 金森 恵子 氏
水戸市 英語指導助手 バーバラ・ペニャーテ 氏

②はじめて学ぶプログラミング

CoderDojo 水戸 メンター 大谷 武郎 氏
CoderDojo 水戸 チャンピオン 井川 健一 氏
CoderDojo 水戸 メンター 小沼 典子 氏

③子ども食堂 県立青少年会館1階ココリコ食堂及びアシ
ストメンバー等によるカレーライスの提供。
水戸農業協同組合から食材の提供を受けた。

○参加者数 延べ 123 名

基本財産の執行状況

1 令和3年度基本財産の一部処分（取り崩し）結果

(1) 承認された基本財産の一部処分（取り崩し）額

- ・令和2年度臨時総会 承認（令和3年3月24日（水）開催）
一部処分量 1,800,000 円

(2) 一部処分（取り崩し）結果

- ・令和4年3月11日（金）、野村証券へ第333回利付国債（額面40,000,000円）の一部解約手続きを行い、同年3月17日（木）振込入金完了した。
- ・受取金額 1,826,578 円
（県民運動推進事業へ 1,800,000 円、青少年会館運営事業へ 26,578 円を充当した）